

8. 将来的な水道事業のあり方について

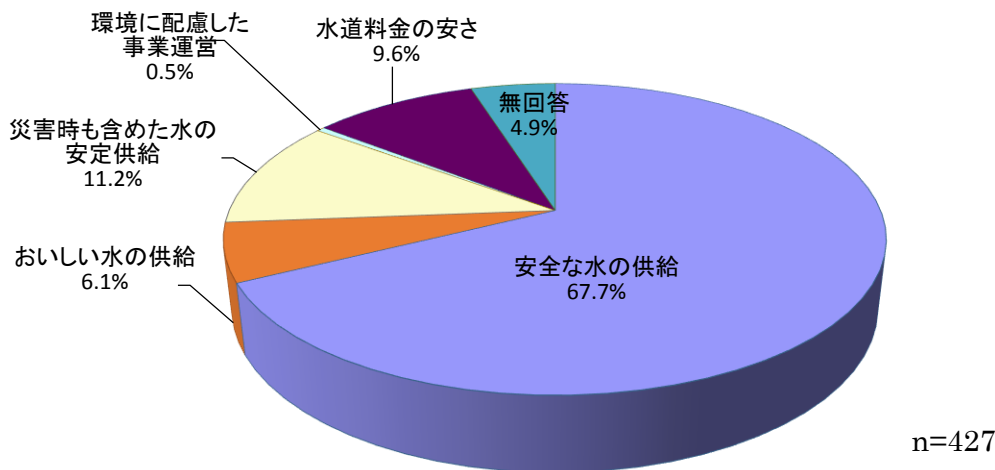
(1) 水道事業を運営していく上で重要な項目

◇ 「安全な水の供給」が7割弱

問23 以下の5項目から、今後水道事業を運営していく上で重要だと思う順に並べてください。

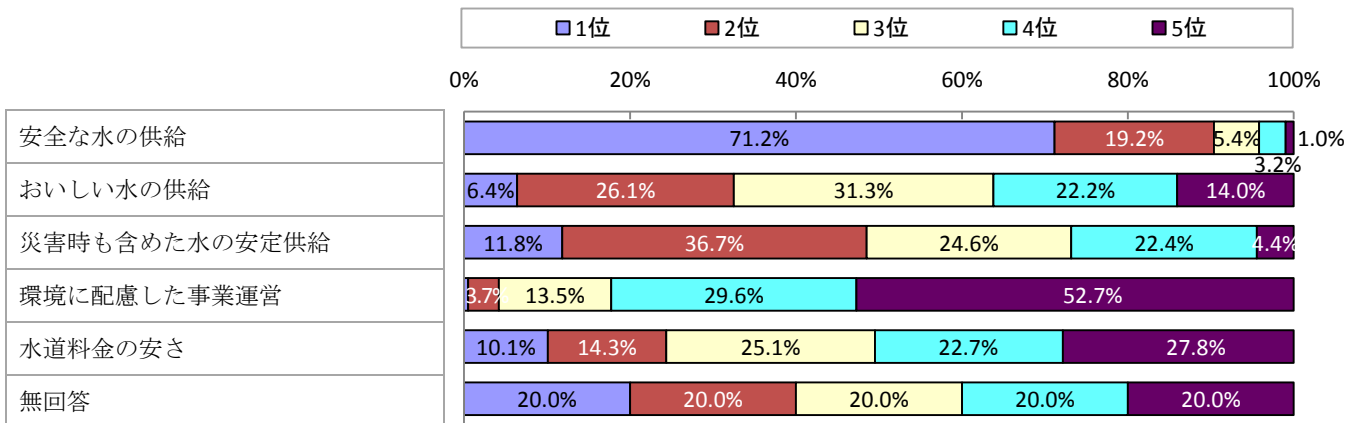
| | n=427 |
|-----------------|-------|
| 1 安全な水の供給 | 67.7% |
| 2 おいしい水の供給 | 6.1% |
| 3 災害時も含めた水の安定供給 | 11.2% |
| 4 環境に配慮した事業運営 | 0.5% |
| 5 水道料金の安さ | 9.6% |
| (無回答) | 4.9% |

<図IV-5-3>全体



今後水道事業を運営していく上で重要だと思う項目については、「安全な水の供給」が67.7%と最も高く、次いで「災害時も含めた水の安定供給」の11.2%であった。(図IV-5-3)

また、重要と思う順位を選択肢別でみると、1位に選んだ回答が最も多かったものは「安全な水の供給」であった。



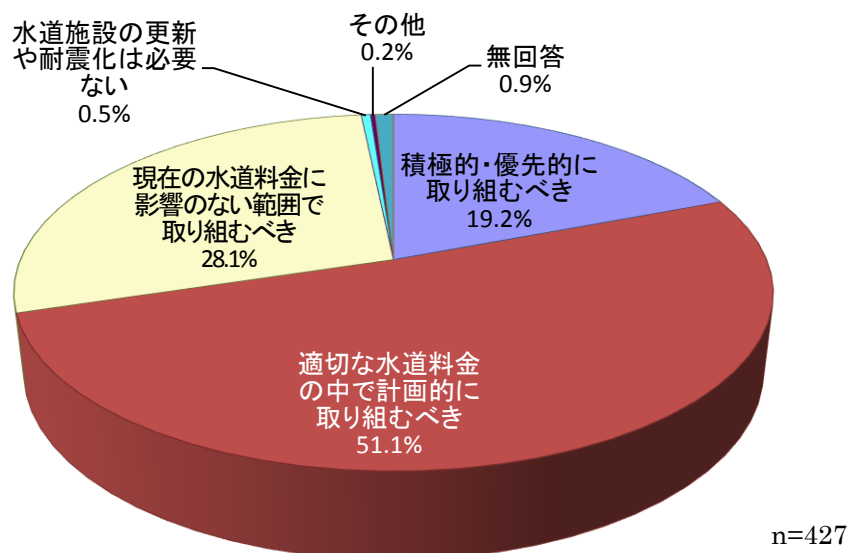
n=427

(2) 水道施設の老朽化に伴う更新や耐震化についての取り組み方

◇ 「適切な水道料金の中で計画的に取り組むべき」が約5割

| | | |
|-----|--|-------|
| 問24 | 今後、これまでに整備してきた水道施設の老朽化により、更新（浄水場の建替えや水道管の入替えなど）に要する費用の増加が見込まれる中、安定した水道水の供給を継続していくため、更新や耐震化についてどのように取り組むべきと考えますか。 (○は1つ) | n=427 |
| 1 | 積極的・優先的に取り組むべき | 19.2% |
| 2 | 適切な水道料金の中で計画的に取り組むべき | 51.1% |
| 3 | 現在の水道料金に影響のない範囲で取り組むべき | 28.1% |
| 4 | 水道施設の更新や耐震化は必要ない | 0.5% |
| 5 | その他 () | 0.2% |
| | (無回答) | 0.9% |

<図IV-5-4>全体



水道施設の老朽化に伴う更新や耐震化にどのように取り組むべきと考えるかについては、「適切な水道料金の中で計画的に取り組むべき」が51.1%と最も高く、次いで「現在の水道料金に影響のない範囲で取り組むべき」が28.1%であった。

性別・年齢別でみると、「適切な水道料金の中で計画的に取り組むべき」では、<男性/70歳以上><女性/50歳代><女性/70歳以上>を除く年代で、50%を超えている。(図IV-5-5)

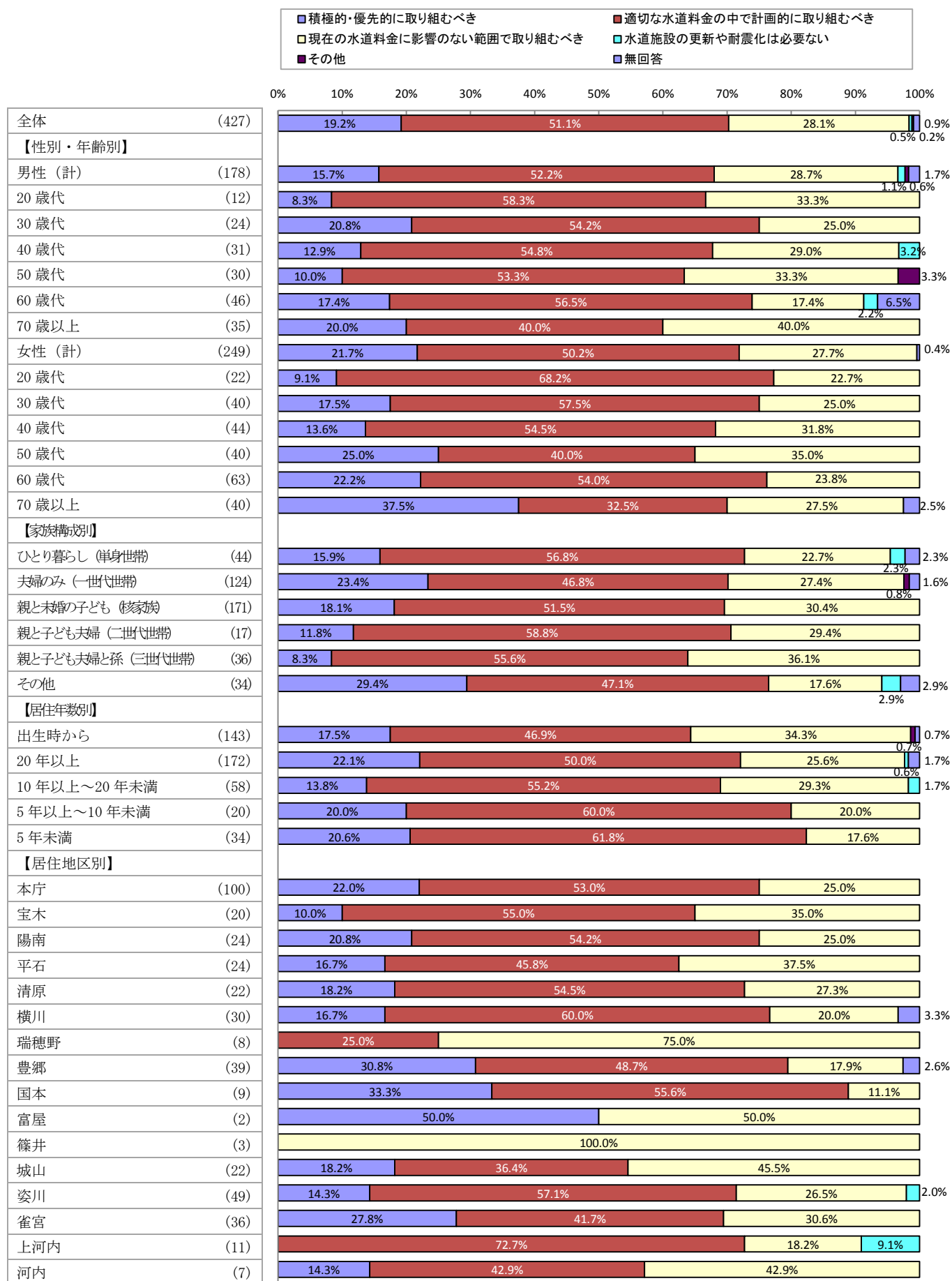
家族構成別でみると、「適切な水道料金の中で計画的に取り組むべき」では、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>の58.8%が最も高かった。(図IV-5-5)

居住年数別でみると、「適切な水道料金の中で計画的に取り組むべき」では、<5年未満>の61.8%が最も高かった。(図IV-5-5)

居住地区別でみると、「適切な水道料金の中で計画的に取り組むべき」では、<上河内>の72.7%が最も高かった。(図IV-5-5)

その他の意見では、「耐震性というが、震度いくつまで耐え得るか具体性が分からない」があった。

<図IV-5-5>性別・年齢別/家族構成別/居住年数別/居住地区別

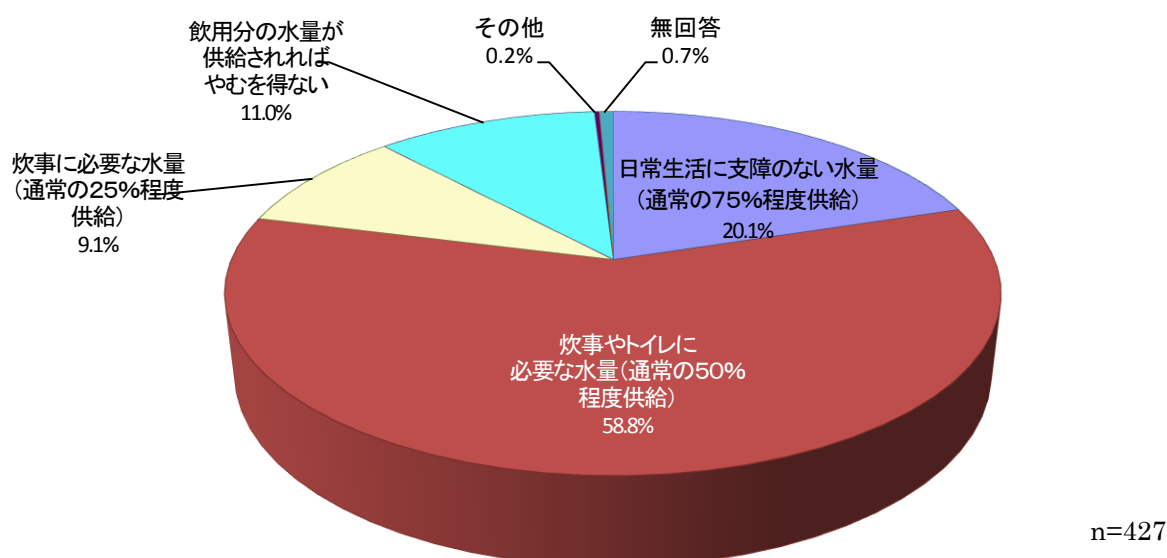


(3) 水道水の供給が困難となった場合の給水対応

◇ 「炊事やトイレに必要な水量（通常の50%程度供給）」が約6割

| 問25 大規模な災害や渇水などにより、万が一水道水の供給が困難となった場合、最低限どの程度の供給が必要と考えますか。 | | (○は1つ) |
|--|--------------------------|--------|
| | | n=427 |
| 1 | 日常生活に支障のない水量（通常の75%程度供給） | 20.1% |
| 2 | 炊事やトイレに必要な水量（通常の50%程度供給） | 58.8% |
| 3 | 炊事に必要な水量（通常の25%程度供給） | 9.1% |
| 4 | 飲用分の水量が供給されればやむを得ない | 11.0% |
| 5 | その他（ ） | 0.2% |
| | (無回答) | 0.7% |

<図IV-5-6>全体



万が一水道水の供給が困難となった場合、最低限どの程度の供給が必要と考えるかについては、「炊事やトイレに必要な水量（通常の50%程度供給）」が58.8%と最も高く、次いで「日常生活に支障のない水量（通常の75%程度供給）」が20.1%であった。

性別・年齢別でみると、「炊事やトイレに必要な水量（通常の50%程度供給）」では、＜男性/50歳代＞＜女性/70歳以上＞を除く年代で50%を超えている。（図IV-5-7）

家族構成別でみると、「炊事やトイレに必要な水量（通常の50%程度供給）」では、＜親と子ども夫婦（二世帯世帯）＞の70.6%が最も高かった。（図IV-5-7）

居住年数別でみると、「炊事やトイレに必要な水量（通常の50%程度供給）」では、＜5年以上～10年未満＞の70.0%が最も高かった。（図IV-5-7）

居住地区別でみると、「炊事やトイレに必要な水量（通常の50%程度供給）」では、＜宝木＞の80.0%が最も高かった。（図IV-5-7）

その他の意見では、「飲用分の水量と飲めないが、身体を拭く程度の清潔な水量に分けて供給できないか」があった。

<図IV-5-7>性別・年齢別/家族構成別/居住年数別/居住地区別

